

## 秋田県研修病院実習（林業現場実習）の開催

地域の医療を担う湯沢市の雄勝中央病院では、秋田大学医学部学生の実習において「地域の医療に携わるには地域の仕事を理解する」ことを目的として秋田県研修病院実習を行っており、今年度は10月1日（金）に当支署にて林業現場実習を開催しました。

当日は6名の医学部学生が来署し、支署長から管内概要の説明を行った後、入林時の安全対策について確認を行い現地見学へと出発しました。

最初は北日本索道株式会社の本社製材工場を訪問し、会社概要の説明と製材工場見学を行いました。

学生達は丸太が製品になってゆく迫力ある過程に圧倒されたほか、切創すると治りが遅いと言われていたチェーンソーの刃を興味深く観察していました。



北日本索道株式会社にて会社概要説明



製材前の丸太から始まり、過程を順に追ってゆく医学部学生



続いて、森林利用として多くの一般の方が訪れている川原毛地獄を視察しました。当箇所は日本ジオパークに指定されており「恐山:青森県」「立山:富山県」と並ぶ日本三大霊場です。貴重な酸性変質帯を保全管理する目的で当支署と地方公共団体、秋田大学が連携して活動している事を紹介しました。



**川原毛地獄の非日常的風景を体験**



**泉支署長と記念撮影**

午後からは森林環境保全整備事業を行っている生産現場(湯沢市秋ノ宮)にて迫力あるスギの伐倒作業を見学したのち、治山事業地として上院内にて施工中の、峠の沢治山工事現場を訪れました。

峠の沢の直下には国道13号やJR奥羽本線が位置しています。上流域の山林を保全することで下流域の道路等も守っていることを説明し、治山ダムとの必要性を理解していただきました。



**伐倒・集材中の現場を見学**



**治山ダムの説明を行う村井監督員**

実習終了後には「(チェーンソーの刃を思い出しながら)医療に携わったとき、怪我をした人の仕事の背景を知っているだけで怪我の捉え方が違ってくる」「新幹線の窓から治山ダムを見たことがあり、何のために工事をしているのか知らなかったが、今日その理由が分かった」等の感想を学生の皆さんからいただきました。

将来、数少ない林産業の産業医となることも期待されます。この体験を活かして医療の現場で活躍していただきたいと思います。